

FUKUOKA YOUTH TIMES

福岡地区青年会広報誌
vol.13(2017.8.31 発行)
—夏の活動報告—
--- + ---
福岡地区青年会広報係

■第14回

福岡ユースカトリックキャンプ

光丘教会 牧野美咲



福岡青年の夏といえばFYCC！今年の福岡ユースカトリックキャンプは大楠教会、聖クララ幼稚園をお借りして8月11日(金・祝)から1泊2日で行いました。

例年はがつつり準備をしている5月半ばはまだFYCCの開催催予定はなく、お泊り会をしてみる!?から始まり、14回目だからテーマは「いーよ！」でいーよとゆるく準備はスタートしました。でもふたを開けてみると、参加者の中高生は23人。神父様、神学生、シスター、特にイエスのカリタス修道女会のシスターの方がバックアップしてくださり、スタッフは40名近くにまでなりました。

当日の内容は福岡教区報10月号(予定)をぜひ見てください☆

参加者の感想で「一生の思い出になると思う」とあり、10年前は参加者だった自分もそうだったと思い出し、

同じカトリックの同世代の仲間たちと集まり共に遊び、学び、分かち合い、生活し、ミサに与ることはかけがえのないことだと改めて感じました。

青年達も仕事など忙しい日々の中で準備は大変だったと思うけれど、信仰をつなぐ大切な役割が少しでも出来たと思います。キャンプ当日は準備不足でバタバタすることもあったけれど、神さまも「いーよ」と微笑んでくださっているかな(^)また、これからもたくさんの人たちと楽しみながら中高生企画が出来ると嬉しいです。

参加してくれた中高生、送り出し協力してくださった保護者の方々、一緒に頑張ったスタッフのみんな、会場を提供してくださった大楠教会のみなさん、見えないところで祈り支えてくださったたくさんの方々と神さまに感謝して。

中高生わっしょい☆開催予定！

10/8(日)午後

レクレーション!?スポーツ!?

お出掛け!?

内容は只今企画中です！

お楽しみに(^ ^)

詳しい内容は9/17にFacebookで

お知らせします！

中高生へ声掛けをお願いします！

■やってみよう！

集まってみよう！

分かち合ってみよう！

西新教会 谷口晴香

地区青年会にはいろんな係がありますが、その中に「信仰養成」といういかにも真面目な、カトリックの名前の係があります。年2回の黙想会と自由なテーマで話を聞き分かち合いをする「放課後スマイリーミーちんぐ」を催していました。しかし、集まる人の顔ぶれや年齢層に偏りがあったのは確かです。

「いろんな青年がいるのに、なかなか集まらないのは寂しい。果たして青年たちはどんなことに興味があるのだろうか、なにを分かち合いたいのだろうか」と思い、新しく企画したのが勉強会です。まず、何を知りたいか、分かち合いたいかをメンバーに聞いてみました。すると、「秘跡」「結婚」「他宗教について」「生と死」「生きる意味」「幸せとは」など、様々と挙がってきました。教会学校で習ったはずだけど忘れてしまったり、詳しくはわからなかったりしていたことや、生きている中で、葛藤の中での信仰を分かち合いたいという思いが伝わってきました。1人ではできないことが仲間と一緒に始めるとかけになります。勇気が持てるようになったところまでできました。まだ、始まったばかりで、目に見える成果として出てくるかわかりづらいですが、青年の不安でも熱い思いを汲み取っていただけだと思います。青年が集まる真ん中にきつとイエス様がいてくださることを信じながら。

【予定されている勉強会】

■9月10日(日) 14時~17時

大名町カトリック教会

『性』について 森山信三神父様

■10月15日(日) 16時~18時

大名町カトリック教会

『秘跡』について 杉原寛信神父様

*カトリック福岡地区青年会 Facebook



■第7回アジアユースデー

インドネシア大会に参加して

久留米教会 藤田 真弓

日本から参加したメンバーは22人でした。九州からは福岡教区の私ともう一人、計二人が参加しました。その

うち半分以上が学生、一人高校生もいました。社会人の私は、皆と仲良くできるかがとても心配でした。でも、準備会や大会を通して仲良くなれたのでとても楽しい旅でした。

参加したいと思ったきっかけは、自分の信仰を振り返りたい、他の国の人々はどんな信仰を持っているのか、私と同じ信仰の在り方なのか知りたいという思いからでした。



日本からの参加者(2017年8月・インドネシア)

大会では、同じ信仰を持っている人々がこんなにくっついてるのだと実際に自分の目で見て感動しました。

行ってみて感じたことは、神様を自分の心のよりどころとして大事にしているというのと同じことなんです。

インドネシアでは、ミサの聖変化の時にはドラを、聖歌を歌う時には伝統楽器を使っていました。日本で与るミサとはまた違った趣があつて、それはそれで良いなと思いました。自分の国の文化を持ちながらカトリックを信仰しているインドネシアの人々の姿を通してこの地球と人を創った神様のユニークさと豊かさを感じました。

このような素晴らしい体験を与えて下さった神様、お祈りで支えて下さった皆様、特に久留米教会の信徒の皆様感謝いたします。

